

令和5年2月15日／毎月1回15日発行

医師と医師会を結ぶ情報紙

Vol. 684

都医NEWS

発行所 ■公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL. 03-3294-8821(代) 定価 ■1部 77円

TMA近未来医療会議 第3回 公開シンポジウム 01

底流／地区医師会長連絡協議会報告 02

東京都医師会 定例記者会見 02

東京都医師会 年末懇親会 02

みどりの広場 ほか 03

ふれあいポスト 04

都医からのお知らせ ほか 05

地区医師会長からの一言 06



雪の丸の内ビジネス街

TMA 近未来医療会議

第3回 公開シンポジウム



和田座長

海老原 全 副座長
「コロナ対策の評価と今後の医療体制」国公

西田 伸一 理事
「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

新井 悟 理事
「新型コロナウイルス感染症自宅療養者への医療支援について」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

尾崎治夫会長の開会の挨拶に続き、来賓の川松真一朗東京都議会自由民主党幹事長代行、たぎうち学都民ファーストの会東京都議団幹事長、中山信行都議会公明党幹事長代理から開会に際して挨拶が

あった。更に、司会を務めた黒瀬徹理事より、来賓の岡本利久厚生労働省医政局総務課長および岩井志奈東京都福祉保健局事業推進担当部長の紹介があった。

初めに、和田耕治第3クールWG座長から、「TMA近未来医療会議 第3クールの論点に関する提言」と題して、次の課題に対する現状認識とそれぞれの課題に対する今後に向けた提言が詳細に紹介された。

1. 医療における課題
①パンデミックによる需要の急激な増加や変化による課題
②平時にもあったが新型コロナウイルス対応で改めて認識された課題
2. 自治体（保健所含む）との連携における課題
3. 東京都や国における課題
4. 市民や患者、社会における課題



東京都医師会ホームページ「TMA近未来医療会議」

続いて、5名のシンポジストによる講演が行われた。各シンポジストと講演内容は次の通りである。

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

「新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、そして今後を考える」

更に、シンポジウムの最後には香取照幸委員長による総括が行われた。その後、フロアからの質疑応答が行われ、最後まで多くの医師会関係者とマスコミ関係者が熱心に聴講していた。結びに、平川博之副会長が挨拶を述べ、閉会となった。

なお、本シンポジウムの模様は、東京都医師会ホームページに掲載される予定なので、興味のある方はぜひ視聴していただきたい。

本会議はすでに第4クールの議題「国民皆保険制度・医療保険制度の未来像（全世代型社会保障および後期高齢者医療制度の見直しも含む）」についてのWGが開催されており、年度末に向けて、提言を取りまとめる予定である。



質疑応答の様子

これからの有事の医療を考える

新型コロナウイルスに携わり、3年が経とうとしている。それぞれに特徴を持つ感染の波を乗り越えるなかで、いろいろと感じたことがある。

まず基本的に東京都の医療は、余剰部分を持たずに常にギリギリの状態で行われていたことがとても大きかった。

急激な感染者の増加に対応するために、さまざまな施策が次々と展開されていったが、その陰で通常医療に什寄せがいき、本来行われるべき医療が滞ってしまったことは、今後の有事の医療を考へるうえで重要なポイントであると思う。とりわけ、救急医療の

救急医療を縮小したり夜間救急を止めたりする病院も出てきて、運ぶ側も受け入れる側も機能が不足してしまうのである。また経路上、普段は通常医療に使用している場所にコロナ病棟や臨時の医療施設を開設するにはある程度の時間を要し、更に開けたり閉め

品は備蓄と供給の仕組み、施設についてはすぐに使えるある程度の箱を準備しておくこと。開設に時間がかからなくて済む。そして、今回は何より人の確保に苦労したわけだが、各医療機関から何人出ると言っても、最初に述べたように普段ギリギリの状態なの

うにする方法はどつたらうか。急激な人員の確保にはかえって莫大な財源が必要となり、また質的な問題も発生する。今回のコロナ禍で、これだけ有事の医療について思い知らされたことを教訓に前進していきたい。

(大坪由里子)

12月21日（水）、都内ホテルにおいて東京都医師会年末懇親会が開催された。今回は感染対策に配慮した正餐形式で行われ、蓮沼剛・水野重樹両理事の司会で進行了。猪

尾崎会長
新型コロナと闘ってき
たという思いがある。
また、東京都医師会員
や東京消防庁等、関係者のき
まざまな側面からのサポ
ーに感謝している」と関係各位
への謝辞を述べた。更に、「東
京の今後の医療提供体制につ
いては、上智大学の香取照幸

が一つになって政策提言をして、実現につなげていきたいと語った。

小池百合子都知事は年末年始の医療体制への協力依頼のほか、「攻めのワクチン・守りの感染対策・検査キット」の3点でアクティブな年末年始を」と呼び掛けた。また、「来

令和5年1月20日(金)

(1)「第31回日本医学会総会
2023東京」の参加登録等
について

令和5年4月21日（金）から開催される「第31回日本医学会総会2023東京」について、春日雅人会頭と門脇孝準備委員長より、挨拶並びに参加登録状況を報告する。

（2）JMATについて（派

東京都は他道府県に比べ、
 普通・上級救急講習の受講者
 数の割合は高いものの、一般
 市民が心肺蘇生を実施した割
 合は低く、生存率・社会復帰
 率も平均以下である。東京都
 医師会では平成16年から、地
 区医師会役員等を対象にAED

サーベイランスシステムからの報告が求められることとなったので、協力をお願いする。なお、電磁的方法による報告ができない場合については、追って示される予定である。

東京都医 — 新型コロナ —

師会 定例

記者会見

正対策等――

疲弊している。行動制限のないなかで、予防の柱はやはりワクチン接種である。また

1月10日(火)開催

—新型コロナウイルス感染防止対策等—

1月10日(火)開催

発熱の有無に関わらず体調がすぐれない時は抗原検査を繰り返し実施し、飲食の際は換気を十分に行っている店を選んで抗原検査をしてから行くなど、感染を減らす対策になお一層のご協力をお願いしたい」と訴えた。

また、「新しい抗ウイルス薬が出てきているが、服用に

より、症状の早期改善のみならず、ウイルス量の早期減少と排出期間の短縮が可能になれば、医療介護従事者やエッセンシャルワーカーなどの早期社会復帰につながる。そのような社会的意義についても今後検討していきたい」と述べた。

併う手続きについて
 新型インフルエンザ特別措置法に基づく「特定接種」について、特定接種管理システムより一部の登録事業者に対して2件のメールが配信されたので、ご承知おきいただきたい。

(6) 令和4年度児童虐待対応研修【専門講座第5回】の開催について
 東京都では医療従事者等を

対象として、虐待の深刻化や再発を防ぐことを目的に標記研修会を行っており、本年度5回目の専門講座についてお知らせする。

◎地区医師会からの報告

（一）中央ブロック

①「港区健康推進事業『ヘルシーナ』について」（港区医師会）

◎出席者による意見交換

◎その他

かで「新型コロナウィルス感染症の感染拡大に伴い過去2年度の同会は中止を余儀なくされ、3年ぶりの開催である。今回は、新型コロナの抗原定性検査で参加者全員の陰性が確認されているので、安心して楽しんでほしい」と語った。

続いて、昨年は中止となつて執り行えなかつた新役員の紹介があり、尾崎治夫会長から挨拶があった。尾崎会長は

未来医療会議で侃侃諤諤の議論が長時間にわたって交わされることも珍しくない。公開シンポジウムには、ぜひ参加してほしい」と語った。

来賓挨拶では、松本吉郎日本医師会長より、東京都医師会から推薦があった角田徹猪口雄二日本医師会両副会長、黒瀬巖日本医師会常理事、大久保ゆかり日本医師会理事、平川博之日本医師会監

都医師会より提言のあった地域包括ケアや予防医療などについて、東京都としても力を入れて取り組んでいきたい」と述べた。

懇親会の乾杯の挨拶は金井忠男埼玉県医師会長が務め、アトラクションとして金森圭司港区医師会理事と桐朋学園の卒業生によるクラシックコンサートが催され、会場を和ませていた。



尾崎会長

この3年間を振り返り、「福井光壽元東京都医師会会長が『行政と医師会はクルマの両輪でなければならぬ』と常々話されていたとおり、コロナ禍でも行政と医師会は連携して新型コロナウイルスと闘ってきたという思いがある。また、東京都医師会員と語った。

東京都医師会 年末懇親会

179 みどりの広場

第31回日本医学学会総会 学術プログラムの見どころ

第31回日本医学学会総会 学術委員長
東京大学大学院医学系研究科
腎臓・内分泌内科教授

南学正臣



されている尾身茂先生をはじめとする素晴らしい先生方をお招きし、充実した内容となっています。

更に、ビッグデータによる医療・医学への栄養、COVID-19、がん生物学、患者・市民参画、働き方改革、地域

シオン立国による挑戦」に基づいて構成されています。このメインプログラムでは、医学・医療の現状と将来展望について議論する数多くのセッションを設けています。

また、特別講演にはノーベル生理学・医学賞を受賞されている大隅良典先生、山中伸弥先生、新型コロナウイルス感染症対策の中心として活躍

第31回日本医学学会総会は、東京都医師会から尾崎治夫会長を副会頭、角田徹副会長をソシアルイベント委員長に迎え、「ビッグデータが拓く未来の医学と医療」豊かな人生100年時代を求めて」をメインテーマとして、2023年4月に東京国際フォーラムを拠点に開催します。

東京都医師会で理事を務める鳥居明先生をはじめとする学術委員会が作成したメインプログラムは、5つの柱「ビッグデータがもたらす医学・医療の変革」「革新的医療技術の最前線」「人生100年時代にむけた医学と医療」「持続可能な新しい医療システムと人材育成」「パンデミック・大災害に対抗するイノベーション」

健康になれそうに思えた。30代の頃に1カ月に20kmの水泳を続け、2年で37kg減量したことを思い出し、膝と腰に負担の軽いプールにも再び通い始めた。2年経った今も、季節を感じながらの散歩と、ひと泳ぎしてから仕事を始めている。まだまだではあるが、体力もつき、足腰もしっかりして10歳は若返った感じがする。いやなことがあっても気持ちの切り替えができ、精神的にも強くなった気がする。いつまで続けられるかわからないが、不養生の皆様にはぜひお勧めしたい。残りの人生、心も体も元気で、世の中のお役に立てれば嬉しく思う。

そして、最後はPPK（ピンピンコロリ）がいい。（渋谷区医師会・井上荘太郎）



秋の代々木公園

代々木公園

早朝散歩で
気持ち(心)も体も若返り

趣味の散歩

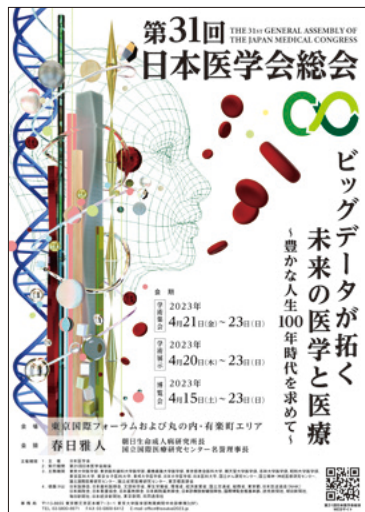


2020年の前半、懇意にしていた歯科医の先生と頼りにしていた眼科の先生が次々に突然亡くなった。ショックだった。小さい頃から肥満で、生活習慣病もある私には他人事ではなかった。その頃、大きな荷物を抱えてデパートの階段

ら運動の許可も下りた。そこで、日頃の悪習と決別すべく運動靴を買い、自宅近くの代々木公園で早朝散歩を開始した。2周約3kmのコースである。運動不足がたたり、初めは筋肉痛で地獄だったが、2週間もすると足の痛みも改善し、

健康になれそうに思えた。30代の頃に1カ月に20kmの水泳を続け、2年で37kg減量したことを思い出し、膝と腰に負担の軽いプールにも再び通い始めた。2年経った今も、季節を感じながらの散歩と、ひと泳ぎしてから仕事を始めている。まだまだではあるが、体力もつき、足腰もしっかりして10歳は若返った感じがする。いやなことがあっても気持ちの切り替えができ、精神的にも強くなった気がする。いつまで続けられるかわからないが、不養生の皆様にはぜひお勧めしたい。残りの人生、心も体も元気で、世の中のお役に立てれば嬉しく思う。

そして、最後はPPK（ピンピンコロリ）がいい。（渋谷区医師会・井上荘太郎）



第31回 日本医学学会総会
2023東京 学術集会プログラム
<https://isoukai2023.jp/program/index.html>



案されたU40委員会企画もあります。今最も関心の高いものや、幅広い分野・年齢の方々が興味を持たれている内容を皆様に楽しみなが勉強していただくように工夫を凝らしたプログラムになっています。

日本医学学会総会の開催は4年に1回で、医療関係者は約3万5千人、一般市民は約50万人が参加し、医学系イ

ベントの中では日本最大のものです。日本医学学会総会は2011年に東京で開催される予定でしたが、東日本大震災のため中止になりました。今回の東京での開催は、実に1999年以来的の24年ぶりのことです。ぜひ、奮ってご参加ください。

掲示板

失敗の科学
失敗から学習する組織、
学習できない組織
マッシュ・サイド 著
有枝 春 訳



読者のみなさんは、どのような失敗をしたことがあるだろうか。防ぐことができた失敗、簡単には原因のわからない失敗、うっかり繰り返してしまう失敗、笑い話にして昇華できる失敗から、トラウマになって誰にも言えないような失敗まで……

失敗にもさまざまな程度や種類、原因があるが、本書には失敗の経験に次々に生かしていくための客観的なヒントが詰まっている。失敗は、誰もが目を背けたい経験であることが多いだろう。何かに行き詰まった時や冷静なヒントが欲しい時、本書は解決の糸口を与えてくれるかもしれない。

本書は医療業界や航空業界、グローバル企業、プロスポーツチームなどのあらゆる業界を横断し、失敗の構造を解き明かしている。この3年間、世界中に新型コロナウイルス感染症が流行し、医療業界でもさまざまな経験があったが、将来に向けてこの経験を生かしていきたい。発行▼ディスカヴァー・トゥエンティワン
価格▼2090円(税込)

知ってますか?

心が折れる

「努力していたことが上手くいかなくなり、やる気を失った状態」を指す。元々は、女子プロレスラーの神取忍さんが、1987年7月18日、同ビューティ・ペアのジャッキー佐藤さんとの壮絶な試合後のインタビューで、「精神的にダメージや恐怖心を与える」という意味で「心を折る」という言葉を使ったことから転じた。

ふれあいポスト 各地区会報から

中野区医師会

平澤友司郎

地球の歩き方

自慢できるかわかりませんが、未だに忘れ難い、私にとって大切な経験を今から披露したいと思います。

大学1年生の夏に高校の同級生と海外旅行に行く計画を立てました。翌年の夏休みにヨーロッパに行くプランです。友人は私と違う遠方の大学に通っていて、連絡を取り合いどれくらい旅費が貯まったか報告し合っていました。旅行らしい旅行をしたことのなかった私は初めての海外旅行に不安もありましたが、まあ二人なら大丈夫かと思いバイトに精を出しました。地方での一人暮らしで、ただでさえ仕送りだけでは不十分なうえに旅費を貯めねばならず、相当苦労し最終的には食費を切り詰めました。

ところがです。年が明けて春前でしょうか。いよいよ夏に旅行だという時に友人からまさかの一言が。「行けない」と言い始めたのです。ちょっと待ってくれ、こっちは必死で貯金してきたのに、と詰め寄ると、サークルの合宿の幹事かなにかで無理だとのことでした。愕然としましたが、しょうがありません。必死で貯めたお金への想いもありました。後には引けない。一人で行くしかない。私の初めての海外旅行は一人旅となったのです。

お金ぎりぎりの貧乏旅行です。期間は5週間。ヨーロッパを8カ国まわる計画を立てました。旅費に大きく影響する航空券はなるべく安くしなければなりません。インターネットのない当時、市内最大の本屋に行って格安航空券購入法という本を買い、記載された旅行代理店へ片っ端から電話しました。最終的に購入したのが、アエロフロートソ連航空のロンドンイン、パリアウトで当時の価格で12万円、当時にしてはかなりの格安でした。最小限の衣類とトーマスクックの時刻表、地球の歩き方、小さな英和辞典、写ルンです10個ぐらいを登山用リュックに詰めて、1990年の夏、20歳の私は成田空港北ウイングからロンドンに向けて飛び立ちました。

ホテル予約なし、決まっているのは入国日と出国日のみという初めての海外一人旅。英語だって受験レベルで話せやしません。離陸した機内で真面目に「帰れんかもな…」と思いました。心配すると思い、親にも二人で行くと話していました。

でも結論を言いますと、行ってよかった、に尽きます。初めて日本を外から意識した瞬間でした。カルチャーショックという言葉では語りきれない衝撃を脳に何度も叩き込まれ人生観が変わりました。各国をまわり、地球は広い、と知りました。そこにはいろいろな文化があり、言語があり、人々がいました。

小さなトラブルもありましたが、今ではいい思い出です。宿泊費を抑えるため夜行電車に乗り床に雑魚寝など、今ではできんなー、若かったなー、と思います。30年経った今でも、たまにその時の旅を思い出す時があります。可愛い子には旅をさせよ、と言いますが定めし名言だと思いました。その時

の旅のお供『地球の歩き方』は今でも捨てずに本棚に置いてあります。

(中野区医師会新聞
2022年6月 No.660より抜粋)



日本三名園は「偕楽園」「兼六園」「岡山後楽園」ですが、この写真は茨城県水戸市の偕楽園の梅です。

水戸は私の生まれ故郷であり、高校生まで市内で過ごしました。今は入園料をとるようになりましたが昔は無料で、よく学校帰りにぶらぶらしました。

園内には約3000本の多種多様な梅が植えられ、梅の後は桜、ツツジと楽しむことができます。2～3月には梅まつりが行われ、この期間は常磐線特急が臨時駅「偕楽園」に停車します。品川から約2時間とアクセスもよく、名物の鮎鯨、常陸牛、そしてもちろん納豆とグルメを楽しむのもよいと思います。ぜひ一度、足を延ばしてみてください。

無 声 拝 聴

マスクから見た日独の違い

2022年2月、突然ロシア軍によるウクライナ領への軍事侵襲が開始された。思えば、ドイツが1939年9月にポーランドに電撃的に侵襲し、我が国日本も1941年12月に真珠湾を奇襲して、人類史上最も悲惨な第二次世界大戦が始まった。

日本とドイツは敗戦国のためかとにかく比較対象とされることも多いが、日本医学がドイツ医学を範としているためか、Arzte (医師) の中にもドイツ文化やドイツ語のファンは多い。ネットではドイツ文化代表の Weihnachtsmarkt (クリスマスマーケット) の動画がアップされていて、そこへ行かずとも美しい様子が楽しめる。そこ

で味わうことができない Glühwein (ホットワイン) や Kakao (ココア) は一度堪能する価値がある。さて、ネット動画で伝える Weihnachtsmärkte では誰一人 Masken (マスク) を着けていないことに驚かされた。知り合いの在独30年の方から「ドイツ人は政府からの統制は殊の外嫌がり、マスク着用の外出義務化に対して参加者2万人のデモがベルリンで行われ、抵抗した」とのこと。また、彼女自身も日本の「同調圧力」が肌に合わず、日本に帰ると未だにマスクをしている風景にウンザリするという。更に、「ドイツ人は個人を尊重し多様性を重んじるのに対して、日本は未だに歴史を

反省せず、外国人を文化的に排除して閉鎖的な社会を守ろうとしている」と手厳しい批判をいただいている。なるほど、スペイン語圏の方やアフリカ・フランス語圏の方にとって、ドイツは憧れの国のひとつであり、日本語よりドイツ語の方が人気の言語である。そんななか、日本在住のイタリア人にこのことを話したところ、「マスクをするのは日本人が主義主張より命を大切にしているから」であって、私は日本人の生き方を尊重したい」と言われてホッとしたことを憶えている。これからの日本人がすべきことは、自分で考えて、自らの考えを表明することだと思う。

(山本純)

小児の原因不明の重症肝炎について

2022年4月5日、スコットランドから原因不明の小児重症急性肝炎のアウトブレイクがWHOに報告され、4月8日までに英国で10歳以下の子ども74例の発生が判明した。患者は元来元気な児で、黄疸、嘔吐、下痢、腹痛、倦怠感があり、6例が肝移植を受けたが死亡例はなかった。英国での急速な感染拡大、アデノウイルス高頻度検出、数例にSARS-CoV-2との併感染を認め、WHOは4月15日より世界規模の調査を開始した。

暫定症例定義は、「確定例」(現時点ではない)、「可能性例」(16歳以下の子どもで、肝炎ウイルスA～E非関与の急性肝炎を呈する者)、「疫学的関連例」(年齢不詳で可能性例の濃厚接触者であり、肝炎ウイルスA～E非関与の急性肝炎を呈する者)とされている。

WHOには、2022年7月8日までに35カ国から1010例の可能性例が報告された。欧州と南北アメリカが91%を占め、国別では米国334例、英国272例、メキシコ69例、日本67例。肝移植46例(5%)、死亡22例(2%)であった。病原体検索ではアデノウイルスが英国65%(142/216)と最多で、そのうち41型が77%(27/35)。新型コロナウイルスは英国17%(34/196)、米国と日本は8%(15/197、5/59)。疫学的関連例は2例報告された。

日本では2022年10月20日までに可能性例が112例報告され、肝移植1例、死亡0例。アデノウイルスは12%(13/108例、41型は1例)、新型コロナウイルスは8%(9/107)検出された。病原体、発症時期、地域性に特定の傾向はなかった。

現時点では病因不明であるが、仮説として①新型コロナ感染対策で子どもの通年流行のアデノウイルス感染曝露がなく、初感染時のアデノウイルス感受性の増加やアデノ随伴ウイルス2の関与、②新型コロナウイルスとアデノウイルスの複合要因による自己免疫反応亢進や小児多系統炎症性症候群(MIS-C)等が挙げられている。

本疾患は世界的に終息傾向にあるが、WHOは昨年7月から2022年の症例を過去5年間の症例と比較し、原因究明につながる世界規模のサーベイランスを行っている。

(文責：黒澤サト子)

感 染 症 豆 知 識

東京都医師会
感染症予防検討委員会

都医からのお知らせ
INFORMATION第458回 国際治療談話会 例会
「わが国の医薬品政策の展望」

問合先 (公財)日本国際医学協会 事務局
東京都世田谷区上馬 1-11-9 3F
TEL: 03-5486-0601 FAX: 03-5486-0599
E-mail: imsj@imsj.or.jp URL: https://www.imsj.or.jp/

日時▶ 3月16日(木) 19時～21時 形式▶ WEB講演

開会挨拶▶ 石橋健一((公財)日本国際医学協会 理事長)

座長▶ 村上貴久((公財)日本国際医学協会 理事)

【第1部】感想▶ 「コロナ禍とウクライナ人道危機への日本赤十字社の対応」 富田博樹 (日本赤十字学園 理事長)

【第2部】講演 I 「我が国の医薬行政の動き」 山本 史 (厚生労働省 大臣官房審議官)

講演 II 「医療DXの展望」 城 克文 (厚生労働省 医薬産業振興・医療情報審議官)

申込方法▶ 右記QRコードまたは当協会ホームページをご覧ください。

視聴▶ 無料 取得単位▶ 日医生涯教育制度1単位(CC:2、7)

2023年度 慈恵医大月例セミナー
(日本医師会生涯教育講座)

問合先 慈恵医大生涯学習センターまたは慈恵医師会
TEL: 03-3433-1111 (大代表) (内線2634・2636)

会場▶ 東京慈恵会医科大学附属病院 中央棟会議室(8階)

開催日・内容▶ ①4月8日(土)「慢性疾患に対する個別化食事指導～臨床研究の成果と今後の展望～」大村有加(糖尿病・代謝・内分泌内科)、「肥満代謝改善手術の現状」宇野耕平(上部消化管外科)

②6月10日(土)「うつ病の基本とrTMS療法」山崎龍一(精神神経科)、「難治性てんかん療法としての反復性経頭蓋磁気刺激の試み」海渡信義(脳神経外科)

③11月11日(土)「心不全治療の変遷」名越智古(循環器内科)、「心臓CT」大内厚太郎(画像診断部)

時間▶ 16時～18時 ※一部変更する場合があります。

医師国保からのお知らせ

医師国保に加入しましょう!

～医師国保は都医会員の相互扶助を行う国民健康保険です～

- 新たに東京都医師会に入会した方
- 現在区市町村国保の保険証をお持ちの方
- 退職等により共済・組合健保等の資格を喪失した方 は、ぜひご家族や常勤の従業員の方と一緒に加入してください。

各種届出に必要な書類は、ホームページよりダウンロードできます。

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6433 (業務課)

都医 HP・E メール

■ ホームページアドレス

<https://www.tokyo.med.or.jp>

■ Eメールアドレス

jimu@tokyo.med.or.jp

地区医師会長からの一言 都心における地域医療 — メリットとデメリット —

中央区医師会長 杉野敬一



中央区には、中央区医師会と日本橋医師会の2つの医師会があります。いずれも戦後に発足し、75周年と70周年を迎えました。中央区医師会は、都心とはいえ会員のほとんどが開業医の集まりであり、地域医療の担い手であることは他の医師会と同様です。現在の会員総数は267名で、そのうちA会員（院長など）は179名です。

私自身は大学病院の循環器科で約25年間勤務し、心臓ペースメーカー植込みやカテーテルアブレーション等の不整脈治療に携わってきました。講師として学生や後輩の指導にもあたってきました。しかし、大学病院では患者に細かく生活習慣などを指導する時間が少なく、もっと身近で小回りが利く診療を行いたいとの思いから、中央区勝どきに内科・循環器科クリニックを開設しました。勝どきで開業したのは、銀座のクリニックで約10年間非常勤として働いていた頃に中央区医師会の先生方との交流があり、医師会内に循環器の専門医が少なく、特に勝どきには少ないことから開業を勧められたのが理由でした。

開業と同時に医師会に入会し、すぐに学術部委員になり、その後間もなく晴海中学校の学校医となりました。2年後には公衆衛生部の理事となり、同時期に介護認定審査会委員になりました。このように、医師会に入会すると自然に地域医療に携わるようになっていきます。更に、当会の特徴としては各科の専門医が比較的多く、医師会内だけで診・診連携を行い、自身の専門性を生かした診療ができることです。また、当区では従業員数50名以上の企業の数が地方より多く、産業医の依頼が多くあります。それらの企業からの健診・検診の依頼も多いようです。このことは、都心での地域

医療にとってメリットかもしれません。

このように、都心の地域医療は地方とは少し違いがあるようです。もちろん日常の診療は地方と変わりはなく、往診などの在宅医療も積極的に行っています。一方で、保険診療の収支を比較すると、都心では賃料や人件費などの諸経費は地方に比べかなり高いようです。それにも関わらず、現在の医療保険制度では一人当たりの診療報酬は地方も都心もまったく同じという矛盾があります。このことは都心での医業にとってデメリットであり、何らかの解決策を期待します。

都心の医療でのメリットの一つに、最先端の医療を比較的早く患者に提供できることがあります。中央区には国立がん研究センターや聖路加国際病院など、全国的にも有名な病院があり、更に近隣にも優れた大学病院が多数存在しています。これらの病院と比較的スムーズな医療連携ができることは、地方に比べて恵まれた環境です。

逆に、最近の新型コロナウイルス感染症対策を考えると、都心と地方ではかなり違いがありました。地方ではドライブスルー方式でのPCR検査センターや発熱外来の開設が比較的容易でしたが、都心ではビル診療所が多く、発熱外来も簡単には作りにくいというデメリットがありました。今後の感染症対策において、都心では独自の対策を考える必要があるのかもしれません。いずれにしても、住民の命と健康を守っていくことが医療機関の責務であることは都心も地方も違いはなく、中央区医師会でも最善の方法を模索しながら進んでいきたいと思っています。